

FMの書棚から

(新刊情報)

第23回

オフィスのセキュリティに関する「すべて」を網羅して解説したマネージャー向けのガイドブック

オフィスのセキュリティ強化は企業にとっても、担当者であるファシリティマネージャーにとっても重要な課題です。しかし、情報システムのセキュリティガイドはあっても、オフィスに的を絞った解説書はありませんでした。オフィスセキュリティマークの認証制度をスタートした社団法人ニューオフィス推進協議会(NOPA)では、オフィスセキュリティコーディネータ資格推進委員長を務める石井龍彦氏が中心になって専門家によるチームを編成し日本で初めてのオフィスセキュリティの入門書をまとめました。石井氏と編集を担当されたNOPA主任研究員の武田一浩氏にお話を伺います。



石井龍彦氏

株式会社くろがね工作所
特別顧問
認定ファシリティマネージャー
認定オフィスセキュリティコーディネータ
オフィスセキュリティコーディネータ
資格推進委員会委員長



武田一浩氏

社団法人ニューオフィス推進協議会
主任研究員

経営資産を守り会社を発展させる —— オフィスセキュリティなるほどガイド

(社)ニューオフィス推進協議会／編著
日刊工業新聞社
2009年4月発行
1,680円(税込)
ISBN:978-4-526-06259-9

- 第1章 オフィスセキュリティとは
- 第2章 オフィスセキュリティの計画・構築
- 第3章 オフィスセキュリティの導入・運用
- 第4章 オフィスセキュリティの点検・監査と維持・改善
- 第5章 オフィスセキュリティの関連知識
- 第6章 オフィスセキュリティマーク認証制度



■ 日本で初めてのオフィスセキュリティ総合解説書(石井龍彦氏)

オフィスのセキュリティへの関心は、年々、高まってきているのに、その要望に応える本はありませんでした。

もちろん、「セキュリティ」で検索したら該当する本はいくらでも探し出せます。しかしそれらのほとんどは情報セキュリティに関する専門書です。

よく誤解されるのですが、「オフィスセキュリティ=情報セキュリティ」ではありません。もちろん重要な情報を保護することは大きな課題ですが、オフィスにはそれ以外にも守るべき経営資産が多くあります。そのための対策をオフィスマネジメントの視点で総合的に考える必要があります。それなのに、オフィスセキュリティについて解説した本はなかったのですね。

自分の家の玄関に厳重な錠前をつけても、窓が開けっ放しであれば泥棒は防げません。オフィスの安全に関しても同じで、総合的なセキュリティへの取り組みが欠かせない、そのための解説書が本書です。

巻末の執筆者一覧を見ていただければ、私たちの意気込みはわかっていただけだと思います。オフィスとセキュリティについて研究、実践してきた12人のメンバーが原稿を書いていますので、これ1冊読めば、基本的なセキュリティの知識と対策は身につきます。それだけに、オフィスセキュリティに関心を持たなければいけない経営者からファシリティマネージャーに、ぜひ、目を通してほしいですね。

つけ加えますと、NOPAが推進しているオフィスセキュリティマーク認証制度があります。この制度は、NOPAが定める認証基準に適合するオフィスセキュリティを実践している企業に、オフィスセキュリティマークを付与する制度です。NOPAでは認証を取得しようとする企業をバックアップするオフィスセキュリティコーディネータの資格者を養成しています。その資格者の教本にもなっています。

■ 経営者やマネージャーが把握すべき内容を網羅(石井龍彦氏)

本の内容を簡単に説明しておきますと、第1章でオフィスセキュリティの概念と全般的な解説を行い、第2章から第4章までが実践編になります。章題をよく見ていただければおわかりのように、オフィスセキュリティマネジメントシステム(OSMS)としてPDCAサイクルに沿って、できるだけ実践的な解説を実例をあげながら説明していますので、そのままガイドブックとして活用していただければ、オフィスセキュリ

ティは実現できるようになっています。構成的にも、見開きごとに1つのテーマを解説するように工夫してありますので、気になるところから読み進めていただいても構いません。

オフィスセキュリティとは、企業にとって守るべき資産が何であるのかを明確にし、それらに対して適切な保護を行うことです。そして資産には、有形無形、様々なものが含まれます。例えば事務所に置いてある会社の印鑑一つであっても、盗まれて悪用されたら被害は甚大なのですから、どうやって守るかを考えなければなりません。

情報システムを強化することは重要なことです。しかし、その前に、経営者やファシリティマネージャーは、オフィスセキュリティを確立していくにはどういう作業や予算が必要なのか、もっと広い視野で会社全体を見ながら対策を立てていかなければなりません。この本は、まさにそのための最適なハンドブックになるはずです。

■ あらゆる企業のセキュリティニーズに応える実用書(武田一浩氏)

オフィスセキュリティへの関心が強くなってきたことから、経済産業省の所管団体であるNOPAでは2006年4月にオフィスセキュリティマーク認証制度を創設しました。認証を付与される企業が急速に増えつつあるとともに、制度の拡充や認証基準の改訂も進み、現在はVer.3.0となって、より実用性と有効性を高めています。そして認証申請をするにあたり、基準に沿ってアドバイスやサポートを行う専門家の需要も高まっており、オフィスセキュリティコーディネータ資格試験も制度設立と同時にスタートさせています。

本書はこのようなオフィスセキュリティマーク認証取得に向けた申請業務支援やビジネスとしても活用できるコーディネータ資格を取得するためのガイドブックという位置づけもありますが、それ以上に、オフィスセキュリティに関する知識と具体的な対策を幅広く紹介している点に注目してほしいですね。

中小規模の企業では、オフィスセキュリティコーディネータのようなスペシャリストを社内に置くのは難しいと思います。それだけに、まず本書を手にとってほしいですね。専門知識がなくても読めるのに加え、「最小限」から「望ましい」まで、認証基準の考え方に則して様々なレベルの取り組みを紹介していますので、どのような企業でも、今、何から始めればいいのかを確実にわかるはずですよ。

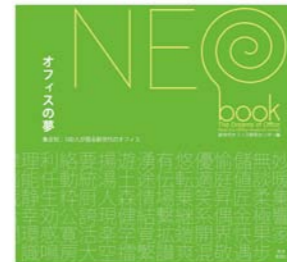
「オフィスはみんなで作くれ」。そんな発想が新世代オフィスのヒントを明らかにしていった

知的生産の現場であるオフィスについて様々な研究を続けている産官学の共同機関「新世代オフィス研究センター」は、今年8月、初めてとなる書籍を刊行することになりました。その内容は、多様な人々にオフィスへの夢とあるべき姿を語ってもらい、その内容から未来のオフィス像を探っていくというものです。集合知を活用するにはどんな工夫が必要なのか、そしてそこから分析できる新世代オフィスのキーポイントとはどういうものなのか、新世代オフィス研究センターでセンター長を務める京都工芸繊維大学大学院教授の仲隆介氏に教えていただきます。



仲 隆介氏

新世代オフィス研究センター
センター長
京都工芸繊維大学大学院
工芸科学研究科
デザイン経営工学部門教授



オフィスの夢 集合知:100人が語る新世代のオフィス

新世代オフィス研究センター／編、発行
彰国社
2009年8月発行(配本は9月初頭から)
2,000円(税込)
ISBN:978-4-395-51102-0

Amazon.co.jpなどのネット書店や全国の書店でもお求めになります。書店に注文する際には上記のISBNコードを利用されると便利です。

■ 新世代オフィスに集合知を活用する意味と意義

新世代オフィス研究センターのメンバーはオフィスに関する様々なテーマについて専門的に研究していく「深掘り」の作業を進めながら、今後のオフィスの方向性を探っていくための「俯瞰」の視点も忘れないようにしています。そして、オフィスの持つ“文化的な側面”や“働くということの哲学的な意味”から“具体的な空間デザインの詳細”まで、非常に幅広い範囲で意見交換をしています。

そんな活動を続けているうちに、これらの成果を一冊にまとめられないかと考えるようになりました。

センターでよく議論になったことの一つに、ワーカー個人の役割分担が明確で成果主義が徹底している欧米型の企業と、個人の役割分担を超えてチームの成果の最大化を目指す日本型企業とでは、それぞれ目指すオフィス像が違うのではないかという議論がありました。センターの特任教員である小笠原泰先生(明治大学国際日本学部教授)は自身の著書(※)の中で日本の働き方の特徴をとてもよく解説されていますが、新世代のオフィスを考えるにあたって、日本の特徴を大事にすることが必要だと考えました。この流れで、NEOで本をまとめる際にも、一部の人間が役割を決めて分担して書くのではなく、みんな総出で本を創りたいと考えました。そんな、皆さんの意見を集合知(Wisdom of Crowds)としてうまくまとめたかったのです。

※「日本型インベーションのすすめ」(日本経済新聞出版社)、「なんとなく、日本人—世界に通用する強さの秘密」(PHP新書)など

■ 「主観+客観」と象徴する漢字でわかりやすく構成

そんな議論を続けているうちに、小笠原先生や、同じくセンターの特任教員を務めていただいている紺野登先生(多摩大学大学院教授)たちとの間で「いろんな意見があるならそれを並べて、そこから傾向などを紐解いてみよう」といったアイデアが生まれました。最終的には106人に登場していただくことになり、分析をお願いした人も含めれば著者は109人にもなります。

編集の仕方としては、意見をいただく方に次の3つのキーワードで新世代オフィスへの意見を書いてもらいました。

▼「FMの書棚から」の下記バックナンバーは<http://www.websanko.com>をご覧ください。

●09年 III号	オフィスは「人」のためにある「人」は楽しい職場で活きたらFMは「人」を中心に考える 豊田武史氏	●06年 III号	ファシリティマネージャーは広い「知識」に接しさらに「見識」、「胆識」へと深めなければ 大きなプロジェクトを完遂することはできない。 小林 茂允氏
●09年 II号	知識創造時代の行動、組織、経営を支えるクリエイティブ・オフィスを実現していくには 広い視野で「働き方」を見直していく必要がある 長坂裕夫氏	●06年 II号	世界中で多くのファシリティマネージャーを育てた「教科書」とも呼べる本を手にするには FMを基礎から学ぶうえで大きな意味があるはず。 松岡 利昌氏
●08年 IV号	人は空間との関係によって行動を変えるそのことをわかってデザインしなければ 「オフィス民度」は高くなっていかない。 李 泰久氏	●05年 IV号	FMを学ぶために必要なは事例、データ、理論をバランスよく知ること 「社会人としての勉強法」を確立していくことだ。 川村 裕氏
●08年 III号	世界中のファシリティマネージャーにとって共通の知識となっている 入門書と予算に関する技術を解説した実用書。 全 英範氏	●05年 III号	ハードウェアのスペックを向上させるだけでなく ユーザーへのサービス品質を高めるのがファシリティマネジメントの本質である。 熊谷比斗史氏
●08年 II号	経営にとって「ファンティ」とは、「場」とは何か? その本質を掘りほす幅広い読書から得る。 似内 志朗氏	●05年 II号	そう考えて実践してきたことがFMの生きた教科書になった気がする。 小山義朗氏
●07年 IV号	プロダクトからオフィス、メディアまでユニバーサルデザインを推進していく 「原点」になった2冊の本との出会い。 加藤公敬氏	●04年10月号	ファシリティマネジメントのFとMを解説 成田 一郎氏
●07年 III号	FMを基礎から学べる「教科書」とFM資格試験講座への参加がこれからの 総務としての仕事のやる気を与えてくれた。 志牟田 章氏	●04年 7月号	日本人には日本人に合った椅子がある。ファシリティマネージャーの視野を広げてくれる 新文化論 石井龍彦氏
●07年 II号	FMはコスト管理だけが目的ではありません。ワーカーが満足できる施設を実現するには サービスの本質を理解する必要があります。 曾野 誠氏	●04年 4月号	FMの発祥地である米国の解説書に学ぶ施設の運営管理に必要な「手法」と「知識」 加藤達夫氏
●06年 IV号	FMのスペシャリストになるといことはインフラのソフトウェアを担うのだから 強い信念と豊かな教養をもってほしい! 池田芳樹氏	●03年11月号	グローバルな競争力が発揮できない企業は昔の日本軍と同じ「敗因」を抱えている 中津元次氏
		●03年 9月号	まずオファスコストを正確に把握すること初心者でもFMが理解できる貴重な解説書 山下島音氏
		●03年 7月号	歴史からPMや管理会計の教科書まで多様な本がFMの知識を深めてくれる 小林茂良氏
		●03年 5月号	ワークプレイス戦略の重要性を経営者にアピールする「虎の巻」 小田毘古氏
		●03年 3月号	IBMの情報戦略は知識社会の到来を予測していた 松成和夫氏